

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 日米技術

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): 日米技術委員会, 審議概要 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43733

特
連
局
と
の
協
議

アメリカ局長
参事官
北米課長

沖繩問題に關し、薄特選局長一課長
未談要旨

39.6.29

参議院外務委員会の沖繩視察團派遣に
關する件

竹内局長より、外務委員会の本件計畫に對する特選
局長の感觸を尋ねたことに対し、薄課長は

沖繩の政情極度の不安な折柄、此の時かに視
察團が行くことは内政干渉的印象を與ふる情
もあり、感心しないと思ふ、さりながら日本の役所
側で断る訳にもゆかないであらう、

議員團が訪沖する場合は、高弁兼務官が
招待するものが従来の慣例であり、招待
場合は入城許可を與えなれと思ふ旨
述べた。

議員團側の計畫を行政機関側から阻止す
る訳にはゆかず、自發的に計畫を中止又は延
期させることが此の際適當と思われらるるので、

GA-6

3531

外務省
39.6.29

委員長の対しは、次の如く返事するに
協議した。

(1) 今沖繩を訪問することは、時勢としては
余りよくならぬと思われらる。

(2) 先方から招待しない限り、入城許可
を與えなれと思われらるが、目下のことは
先方が招待するとは思われなれ。

(3) 委員会として正式に派遣を決定した
場合断らることは、面子の問題とし
て、甚だ困る事態に陥る供あり。

2. 小笠原基参考問題について

薄課長より、先般参議院予算委員会において
吉田議員より、(共済一、民社)

「小笠原の軍事的価値は甚だ少く、かつ標高
が、調査團を派遣して現状を調査する
こととしては如何、」

との発言があつたことと説明した。

竹内局長より、小笠原基参考問題に對する

旧島民の希望は、真に強き希望であること

GA-6

外務省

質問1のに対し、課長は 然りと答へ、特選局としては 基参の費用は毎年予算に要求しており、正式に決れば 大蔵省が 費用から出すことになる旨 説明した。

尚本件は、朝刊が 報道したのみで、関係者から、特選局に 問い合わせ、外務省に 問い合わせ、正式の 陳情書はなし。

(局長、西尾等と 通話)

3. 技術委員会の開催について。

薄課長より、総務長官は 内閣改造により、10日頃 退任の模様であるが、同長官 在任中の 懸案、マイクの問題、技術委員会開催問題について、在任中の 是非片着きたい希望で、特に技術委員会 の開催には 甚だ強い希望があり、7月4日までに 是非一回の 委員会を開催したい 意向である。期限も切つて 申入れることは、特に 長官の指示によるものであるから、此の 是非は 是非大使館に 申入れてほしい、と 要望した。

(枝林課長代理より、本件は既に大使館に 申入れ済みの旨 説明した)

また、同課長は、外務省から 承る 現地側の

意向は 極めて 楽観的であるが、南運所長からの 現地の 空気は、大使館情報とは 大分異なり、民政社側は 技術委員会開催には 極めて 消極的で、技術委員会の 議題と 予定されているものは 既に大部分片着いており、特に 技術委員会を 開催する必要はない、との 意向と 伺った。

然し、技術委員会が 一回も 開かれずには 内政上の 問題となり、特選局としても 甚だ 困る立場に 立つので、一回の 会合は 是非 早く 開かれるよう 配慮 願いたい、と 述べた。

(枝林課長代理より)

先般 特選局 希望 大使館に 申入れたが、
東京の 申渡から 回答が 到着して
いるとのことで、明日 Bruns が 来るから 状況が 判明すると思う、結果は 連絡する旨 答えた。

4. 沖縄政情について、薄課長より 最近の 沖縄政情について

1) 26日 自治振興大会の 野党

敬取会社会等の主催をもつて、民政部
前広場で開催される氣勢をあげた。

(2) 民生クラブ / 1 / 1 / 1 は立法院の団体
届出をした。復党の意思はなしと
声明した。

(3) 高井年務官は17日、20日保守党指名
を拒致し、保守合同、後任主席指名
につき懇談したが、後人側は聞く
のみであった。

27日午は、民生クラブ会が中止された
が、同クラブは出席しないうえ断つた。

関係し

上記説明の枝村課長代理に

外務省
税務課
大島
連日
の
事務
後
外
は
秘書
長
命
命

「沖縄問題について何等か対米申入れをするとは」

現在の政局混乱の真相を把握しなけれは

ならぬ。したがって、党内の派閥争の如きものであれば

申入れは行わない。本意の真相を知りたい

(2) 申入れを行うについては、早急に表文を作成し

ては問題にならぬ。「どうしてか」と具体事

的の理由が必要である。この趣旨が伝わらぬ

現在、現在の政局の真相と交渉の

事務上の申し入れは、対米申入れを拒否した。外務省
の申し入れは、(1) 対米(2) 復党(3) 復党(4) 復党(5) 復党

論議は、(1) 対米(2) 復党(3) 復党(4) 復党(5) 復党

具体案については、昔ま物に提供ありたい
と要請し、特達局は了承した。